

## (写真) シャッターチャンス

菅田 忠志

それ今だ！「パシヤリ」。羽をばたばたさせながら必死にもがくアブラゼミ。自分より大きな体の獲物を、左右の大きな鎌で抱きかかえるように押さえ込む力マキリ。

ひときわ異色な顔立ちをしたカマキリの牙が、しっかりとセミののど元にかみついている。

逆三角形の頭部は、左右からギラギラとにらみつける目は大きく張りだし、まるで仮面ライダーの顔だ。

それに加え、いかにも闘争的で複雑な構造をしたあごからは、鋭い牙が左右から、これまた獲物を抱きかかえるように生え、相手の急所にかみつくのにも有利な形をしている。

しかし、このグロテスクな顔にしては、あまりにも細い首筋が不釣り合いでならない。なんなくぼろ

りとちぎれてしまいそんなグラグラしたこの首からどうしてあんなに強烈な顎の力が出せるのだろうか。

日頃は動きの少ないカマキリだが、獲物が近くに来た時の行動は実に俊敏だ。

それに比べて、セミは実におっとりとした性格のようだ。木にとまったセミの歩行は、のそりのそりという表現がピッタリだし、飛んできたセミの着地も変わっている。

鳥や他の昆虫のように、あらかじめ着地点を定めてスマートに降り立つのではない。大体の場所を決めておき、まるで体当たりでもするように体全体をぶつけ、ばたばたさせながら、しがみつこうとするを、探すという習性を持っている。

だから時には敵の存在も確かめずに飛来し、つかまつってしまうことになるのだろう。

小さな自然界の営みをじっと観察していると、ときには不思議な世界に出合えるシャッターチャンスもある。草花に秘められた優雅な工夫。昆虫たちの

壮絶な戦いやユーモラスなしくき。

しかし、彼らを見つめていると、「ふと」「おれたちの住みかをどこまで壊すんだー!」「と」にぞみ返されている視線が、レンズに突き刺さってくるように感じ、ドキッとするときがある。

共生の目と心を失わず、彼らへの礼儀も忘れないように、これからも彼らと接してゆくとしよう。